

2025.02 総合安全統括管理者試験 試験問題例
(試験時間 85 分)

※解答にあたっては、各選択肢に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

問 1 海上運送法の目的に関する次の記述中、A、B に当てはまる語句の組合せとして正しいのはどれか。

海上運送法の目的は、海上運送事業の運営を適正かつ合理的なものとするにより、輸送の安全を確保し、海上運送の (A) を保護するとともに、海上運送事業の健全な発達を図り、もって (B) を増進することである。

1. A : 利用者の利益 B : 公共の福祉
2. A : 利用者の利益 B : 定時運航率
3. A : 提供者の利益 B : 公共の福祉
4. A : 提供者の利益 B : 定時運航率

問 2 安全管理規程に記載しなければならない内容として、最も妥当なのはどれか。

1. 発航を中止すべき基準を超えた悪天候時に出航できるようにするための、安全確保に関する事項。
2. 危険物をはじめ、旅客の安全を害するおそれのある物品の取扱いに関する事項。
3. 船舶ごとの安全統括管理者の選任及び解任に関する事項。
4. 事業の収支改善による安全設備の強化のための取組に関する事項。

問 3 安全統括管理者や運航管理者の選任に関する次の記述中、A、B に当てはまる語句の組合せとして正しいのはどれか。

人の運送をする船舶運航事業者は、安全統括管理者 (A) 運航管理者を選任しなければならない。

人の運送をする船舶運航事業者は、安全統括管理者又は運航管理者を選任し、又は解任したときは、(B) その旨を国土交通省に届け出なければならない。

1. A : 及び B : 当該選任又は解任の日から 15 日以内に
2. A : 及び B : 国土交通大臣からの要請を受けた場合に
3. A : 又は B : 当該選任又は解任の日から 15 日以内に
4. A : 又は B : 国土交通大臣からの要請を受けた場合に

問4 安全統括管理者の職務に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 船舶の運航に関する計画を策定すること。
2. 輸送の安全を確保するために必要となる事業収益を確保すること。
3. 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の体制を整備すること。
4. 安全統括管理者と運航管理者の兼務禁止について遵守すること。

問5 安全統括管理者の対応として、最も妥当なのはどれか。

1. 経営の責任者や運航管理者と協力し、安全管理規程を定めたが、ほかの従業員への周知は特に行わなかった。
2. 船舶の運航の安全管理体制の運用については、教育・訓練の企画・実施も含め、全て運航管理者に一任し、自らは特に対応をしなかった。
3. 安全運航に必要な設備の老朽化が進みつつあったので、経営の責任者に設備の入替を進言した。
4. 安全統括管理者が定年退職したので、新たに選任するまでの1年間は、適切な安全統括管理者資格者証を持たない運航管理者が代理で対応した。

問6 安全統括管理者資格者証に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 安全統括管理者資格者証の有効期間は2年であるので、2年毎に安全統括管理者試験を受験し、試験に合格しないと資格者証の更新を受けることはできない。
2. 海上運送法に基づき安全統括管理者資格者証の返納を命じられた場合、その日から1年を経過しない限り、新たに安全統括管理者資格者証の交付を受けることができない。
3. 安全統括管理者資格者証の交付を受けていれば、運航管理者資格者証の交付を受ける際に、船舶の運航に関する実務の経験は免除される。
4. 人の運送をする船舶運航事業者は、事業運営上の重要な決定に参画する管理的地位にある者であって、必要な安全統括管理者資格者証の交付を受けている者のうちから、安全統括管理者を選任しなければならない。

問7 安全統括管理者及び運航管理者に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、組合せとして正しいのはどれか。

- A：国土交通大臣は、安全統括管理者又は運航管理者がその職務を怠った場合であって、当該安全統括管理者又は運航管理者が引き続きその職務を行うことが輸送の安全の確保に著しく支障を及ぼすおそれがあると認めるときは、人の運送をする船舶運航事業者に対し、当該安全統括管理者又は運航管理者を解任すべきことを命ずることができる。
- B：国土交通大臣は、安全統括管理者資格者証又は運航管理者資格者証の交付を受けている者が海上運送法若しくは海上運送法に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したときは、その安全統括管理者資格者証又は運航管理者資格者証の返納を命ずることができる。

1. A：○ B：○
2. A：○ B：×
3. A：× B：○
4. A：× B：×

問8 船舶が事故を起こした場合の通報先に関する次の記述のうち、A、Bに当てはまる語句の組合せとして正しいのはどれか。

- ・海上で事故を起こした場合：(A)
- ・湖や河川で事故を起こした場合：(B)

1. A：海上保安庁の緊急通報用電話番号「117番」
B：警察の緊急通報用電話番号「110番」
2. A：海上保安庁の緊急通報用電話番号「118番」
B：警察の緊急通報用電話番号「110番」
3. A：警察の緊急通報用電話番号「110番」
B：海上保安庁の緊急通報用電話番号「117番」
4. A：警察の緊急通報用電話番号「110番」
B：海上保安庁の緊急通報用電話番号「118番」

問9 旅客名簿に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、組合せとして正しいのはどれか。

A： 旅客名簿の備え置きは、全ての旅客船事業者に義務付けされている。

B： 旅客名簿は船内に備え置かなければならない。

- 1. A：○ B：○
- 2. A：○ B：×
- 3. A：×
- 4. A：×

問10 人の運送をする船舶運航事業者の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、組合せとして正しいのはどれか。

A： 経営の責任者が交代になったので、安全管理規程を変更して運輸局へ届出を行った。

B： 旅客が閲覧できるように、営業所の分かりやすいところへ安全管理規程を備え置いた。

- 1. A：○ B：○
- 2. A：○ B：×
- 3. A：×
- 4. A：×

問11 水上交通の危険性に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

- 1. 水上にある船舶は、十分な準備をし、安全を確認しながら航行することで、故障や事故の発生を確実に回避することができる。
- 2. 船は水に浮くものであり沈まないため、故障や事故を起こした場合でも救助を落ち着いて待てばよく、通信手段は不要である。
- 3. 水上では、注意して見張りをしていても水面下の暗礁や障害物は見えにくいため、事前の水域調査や情報収集を実施する。
- 4. 水上で非常事態が発生した場合であっても、救援を求めたのであれば、救助の妨げになることから、自分自身で対処することは厳に慎むべきである。

問 1 2 救命器具の取扱いに関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 事故時の衝撃で簡単に外れることがないように、救命浮環を人の手では外せないように厳重に固定した。
2. 救命胴衣は、めったに使用することはないため、多少の傷や穴は修理しなかった。
3. 救命浮環の代わりに、救命浮器を備え置いた。
4. 救命胴衣の見やすい場所に、船名及び船舶所有者名を表示した。

問 1 3 台風に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 台風は、太平洋高気圧の縁をまわり、日本付近に向かって南下することが多い。
2. 暴風雨圏内だけでなく、その周辺海域も波が高いことがある。
3. 上空の風の影響は受けなため、気圧配置から台風の進路を予測しやすい。
4. 台風から遠く離れていれば、大きなうねりが来ることはない。

問 1 4 天気に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 低気圧とは、周囲よりも相対的に気圧が低く、中心部では上昇気流が発生し、一般的に天気は悪い。
2. 低気圧とは、周囲よりも相対的に気圧が高く、中心部では上昇気流が発生し、一般的に天気は良い。
3. 高気圧とは、周囲よりも相対的に気圧が高く、中心部では下降気流が発生し、一般的に天気は悪い。
4. 高気圧とは、周囲よりも相対的に気圧が低く、中心部では下降気流が発生し、一般的に天気は良い。

問 1 5 冬によくみられる「西高東低の気圧配置」に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 日本海側で晴れやすく、太平洋側は雪が降りやすい。
2. 日本海側で雪が降りやすく、太平洋側は晴れやすい。
3. 日本海側、太平洋側ともに晴れやすい。
4. 日本海側、太平洋側ともに雪が降りやすい。

問 1 6 濃霧注意報の発令など運航が中止されるおそれがある気象・海象の場合における安全統括管理者の指示に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 前例を確認し、過去に運航を行ったことがある場合には、今回特有の事情を特に踏まえる必要はなく、前例に従って運航するように船長と運航管理者に指示する。
2. 運航を中止すると社長から叱責されるため、運航するように船長と運航管理者に指示する。
3. キャンセル処理で従業員の負担が増加しないように、多少無理してでも運航するように船長と運航管理者に指示する。
4. 運航中に船長と運航管理者が連絡をとる回数をいつもより増やし、情報共有を密にするとともに、適切な運航可否判断を行うよう指示する。

問 1 7 飲酒に関する次の記述のうち、最も妥当なものはどれか。

1. 乗組員は、飲酒後、正常な当直業務ができるのであれば、呼気 1 リットル中のアルコール濃度が、基準値以上であっても当直を実施してよい。
2. 乗組員は、飲酒後、正常な当直業務ができなくとも、呼気 1 リットル中のアルコール濃度が基準値以下であれば、当直を実施してよい。
3. 船長は、乗組員が飲酒等の後、呼気 1 リットル中のアルコール濃度が基準値以上である間、いかなる場合も当直を実施させてはならない。
4. 船長は、自身が飲酒していなければ、飲酒後の乗組員の呼気 1 リットル中のアルコール濃度が基準値以上であっても、当該乗組員に当直を実施させてよい。

問 1 8 総合安全統括管理者試験に合格した者の安全統括管理者資格者証の申請に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。ただし、申請者には乗り組み経験や運航管理の経験はないものとする。

1. 運輸局が実施する 1 時間の勉強会に参加したうえで、資格者証の取得を申請した。
2. 登録講習機関が実施する 1 時間の勉強会に参加したうえで、資格者証の取得を申請した。
3. 大型船舶の安全に関する業務の経験を半年積んだうえで、資格者証の取得を申請した。
4. 大型船舶の安全に関する業務の経験を 1 年積んだうえで、資格者証の取得を申請した。

問 19 船長は、他の船舶又は航空機の遭難を知った場合、船員法に基づき、船長が実施すべき事項に関する次の記述中、A、B に当てはまる語句の組合せとして正しいのはどれか。

船長は、他の船舶又は航空機の遭難を知ったときは、(A)に必要な手段を尽さなければならない。但し、自己の(B)する船舶に急迫した危険がある場合等は、この限りでない。

1. A : 人命の救助 B : 所有
2. A : 人命の救助 B : 指揮
3. A : 自船の帰港 B : 所有
4. A : 自船の帰港 B : 指揮

問 20 船員法の規定による、旅客に対する避難の要領等に関する次の記述中、A、B に当てはまる語句の組合せとして正しいのはどれか。

船長は、避難の要領並びに(A)について、(B)するほか、旅客に対して周知の徹底を図るため必要な措置を講じなければならない。

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1. A : 最寄りの海上保安機関の連絡先及び担当者 | B : 船長室内に掲示 |
| 2. A : 最寄りの海上保安機関の連絡先及び担当者 | B : 旅客の見やすい場所に掲示 |
| 3. A : 救命胴衣の格納場所及び着用方法 | B : 船長室内に掲示 |
| 4. A : 救命胴衣の格納場所及び着用方法 | B : 旅客の見やすい場所に掲示 |

問 21 荒天時の対応に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 発航時に運航を中止すべき波高等の条件を超えるような荒天が予想されるときは、出航を取りやめる。
2. 荒天時においては、船体が跳ねるよう波に合わせて速力調整をする。
3. バッテリーや燃料タンクなどの重量物は、荒天時でも動くことがないため、固定する必要はない。
4. 航行中に運航を中止すべき波高等の条件を超えるような荒天に遭遇した場合は、いかなる場合でも到着港への移動を優先する。

問 2 2 安全統括管理者及び運航管理者の対応に関する次の記述のうち、最も妥当なものはどれか。

1. 事故が発生した場合は、発生から 10 年以内に、乗組員等に対し、事故の再発防止に向けた安全教育を実施する。
2. 事故が発生した場合は、発生から 10 年以内に海難その他事故等の事例を調査研究し、乗組員に周知徹底をはかる。
3. 乗組員等に対し、安全管理規程や関係法令等について、理解しやすい具体的な安全教育を定期的を実施する。
4. 乗組員等に対し、安全管理規程や関係法令等について、理解しやすい具体的な安全教育を 1 回に限り実施する。

問 2 3 船舶安全法に基づく、船舶検査に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。ただし、船舶安全法の適用となる船舶であることを前提とする。

1. 船舶検査証書を受有していない船舶であっても、臨時に航行させる場合は、検査を受けずに航行させてもよい。
2. 総トン数 20 トン未満の小型船舶の検査は、一部の特殊の船舶を除いて、日本小型船舶検査機構（JCI）が実施している。
3. 交付を受けた船舶検査証書は、紛失防止のために陸の事務所に備え置かなければならない。
4. 船舶検査証書の有効期間はすべて 5 年である。

問 2 4 船舶検査に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、組合せとして正しいのはどれか。

- A：船舶の長さ、幅又は深さの変更その他船体の主要な構造の変更で船体の強度、水密性又は防火性に影響を及ぼす改造が行われた場合には、臨時検査を受検する必要がある。
- B：中間検査とは、定期検査と定期検査の間において、基準に適合しないおそれがある、国土交通大臣が特に必要があると認めるときに行う検査のことである。

1. A：○ B：○
2. A：○ B：×
3. A：× B：○
4. A：× B：×

問 2 5 船舶に備える救命設備に関する次の記述中、A、B に当てはまる語句の組合せとして正しいのはどれか。

人の運送をする船舶運航事業の用に供する船舶については、原則として、最低水温が (A) になるおそれのある水域では、(B) を備えなければならない。

1. A : 20 度未満 B : 救命艇に救難食料、笛または同等の音響信号器
2. A : 20 度未満 B : 荒天時に落水せず乗り移りが可能な救命いかだ
3. A : 10 度未満 B : 救命艇に救難食料、笛または同等の音響信号器
4. A : 10 度未満 B : 荒天時に落水せず乗り移りが可能な救命いかだ

問 2 6 救命胴衣（膨脹式ライフジャケット）の点検方法に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、組合せとして正しいのはどれか。

A : ライフジャケットについているガスボンベは、封板が破れていないかを目視で確認し、破れている場合は新しいガスボンベに交換する必要がある。

B : ノズルから空気を吹き込むことで、ライフジャケットの膨脹部に穴が開いていないか確認することができる。

1. A : ○ B : ○
2. A : ○ B : ×
3. A : × B : ○
4. A : × B : ×

問 2 7 次の記述のうち、安全統括管理者が、小型船舶に船長として乗船しようとする者について確認しなければならない事項として、A、B に当てはまる語句の組合せとして正しいのはどれか。

船員法の規定による (A) を修了した者であること。

船舶職員及び小型船舶操縦者法に規定する乗船基準に定める小型船舶操縦者として、当該小型船舶に乗船することができる (B) であること。

1. A : 特定教育訓練 B : 小型船舶操縦士
2. A : 特定教育訓練 B : 海技士
3. A : 苦情処理訓練 B : 小型船舶操縦士
4. A : 苦情処理訓練 B : 海技士

問 28 船員法に基づく、船員の配置に関する次の記述中、A、B に当てはまる語句の組合せとして正しいのはどれか。

船長は、通常の場合における (A) 作業の時間帯及び作業内容に関し、国土交通省令で定めるところにより、通常配置表を定め、これを (B) その他適当な場所に掲示しておかなければならない。

1. A : 陸上従業員の B : 船員室
2. A : 陸上従業員の B : 船長室
3. A : 船員の船内 B : 船員室
4. A : 船員の船内 B : 船長室

問 29 船員法に基づく、教育訓練に関する次の記述のうち、最も妥当なのはどれか。

1. 旅客船の船長は、機関の操作に関する事項について、甲板部の職員に対し教育訓練を実施しなければならない。
2. 旅客船の船長は、機関の操作に関する事項について、機関部の職員に対し教育訓練を実施しなければならない。
3. 旅客船の船舶所有者は、旅客の安全の確保に関する事項について、乗組員に対し教育訓練を実施しなければならない。
4. 旅客船の船舶所有者は、機関の操作に関する事項について、船長及び甲板部の職員に対し教育訓練を実施しなければならない。

問 30 特定教育訓練の実施方法に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、組合せとして正しいのはどれか。

A : 特定教育訓練は、被訓練者に対して座学による講義を行えば足りる。

B : 過去に一度、特定教育訓練を受けていれば、5 年休職し復職した場合でも特定教育訓練は不要である。

1. A : ○ B : ○
2. A : ○ B : ×
3. A : × B : ○
4. A : × B : ×